

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和4年11月25日(金) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員 :14名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 4名
配布資料	① 会次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和4年度第2回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 開会宣言 2. 学園側関係者挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 校長挨拶 3. 委員紹介 【井坂副校長】 各委員の紹介 4. 議長の選出 【井坂副校長】 会則に則り、渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)を議長に選出 【渡邊委員長】 議長挨拶 5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員15名、出席14名、委任状0名)) 6. 議事 (1)第一号議案:2022(令和4)年度 第1回学校関係者評価委員会議事録確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認 (2)第二号議案:2022(令和4)年度事業計画進捗状況報告 【渡邊委員長】 事務局へ2022年度の事業計画進捗状況の報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 【2022(令和4)年度事業計画進捗報告】 ＜はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～＞ 「高校教育の改革」 「大学入学者選抜の改革(大学入学共通テストの導入)」 「大学教育の改革」 「専門職大学制度」 「高等教育の無償化」 「リカレント教育の充実(リスキリング)」

「大学全入時代へ(今年度入試の実態・推薦・総合型選抜の増加)～日本経済新聞より～」

<基本方針>

「学園理念の達成」

- 高い技術力(専門性) —
⇒職業実践専門課程・ステップクリア授業
- 豊かな人間性(社会性)—
⇒リアルジョブプロジェクト

「学生募集『共感される学校づくり』」

- 次年度入学者目標と、現在の出願数について確認 —
⇒見学出願率向上(OCの見直し・質向上)
⇒発信強化(RJP・教学マネジメント・SEO対策等広報連携)
⇒高専連携強化(文科委託事業を含む)
 - ・都立練馬工業高等学校
 - ・都立六郷工科高等学校
 - ・都立多摩工業高等学校
 - ・都立蔵前工業高等学校
 - ・県立神奈川工業高等学校
- ⇒留学生オンラインコミュニティ運営
 - ・入国できない留学生に向けて情報発信
 - ・RJPを中心に学内や在校生の様子を配信

「教育活動『自己改善できる学校づくり』」

- 教務指標 —
⇒目標退学率5%以内
※現況 2.9%(577名中17名)
⇒その他、本年度の状況
 - ・年間出席率:96.2%
 - ・課題発生率:8.4%
 - ・課題残率 :1.5%
- 就職活動 —
⇒早期内定(8月末内定80%)、優良企業への内定確保
※本年度8月末90%達成(昨年度74%)
⇒2022年度内定優良企業の紹介(報告資料参照)
- 授業の問題発見・改善手法 —
履修判定試験結果分析からカリキュラム等の問題点の発見
⇒S-P表分析の実装・ルーブリック評価表の再実装
- 学習成果の見える化 —
ディプロマポリシーの達成度を確認
⇒eポートフォリオの作成・公開
⇒学習成果発表会の開催

— リアルジョブプロジェクトに関する報告—

建築監督科:①教場整備

②教材作成

③10階展示整備

④OC用教材のサンプル

建築科 :①校内共用部(教場整備と保全)への提案

②地域建築・都市計画等に関する研究とまとめ

③メディアセンターのリノベーション等調査と提案

インテリア科:①女子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション

情報処理科:①ラズベリーパイによるIoTコンテンツの開発

IoT+AI科:IoTおよびAI技術による課題解決

DS+AI科:映画視聴中の感情移入を可視化するWebサービス開発

ゲームプログラミング科:①スマートフォンゲーム開発
②Windows ネットワークゲーム開発

Web動画クリエイター科:①吉祥寺ハロウィンフェスタ
ポスター・チラシ・ラリー動画・Web サイト制作
②中野区うさごはんカレンダー壁紙制作
③学科別ランディングページ制作(広報本部依頼)

バイオテクノロジー科:①植物関係
②標本・模型
③環境整備
④広報活動を10班に分かれて実施

環境テクノロジー科:①水処理施設新技術調査
②水生昆虫の標本整理
③水生生物絵本製作
④体験授業提案
⑤水の鉄除去

— 学習支援等に関する報告 —

高等教育の無償化

⇒本年度53名(9.1%)が受給(2021年度59名、2020年度44名)

リカレント教育の充実

⇒人生 100 年時代の学び直し

教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の継続

専門人材育成訓練制度の受入れの継続

Web 動画クリエイター科:8名枠、バイオテクノロジー科:5名枠、環境テクノロジー科:5名枠

「DX をワクワクさせる学校づくり」

<学び拡充プロジェクト「新科 2 科の設立 (R04 年度開講)」>

⇒ 新科2科設立済、現在2年次カリキュラムおよび就職先企業開拓を開始

<学び満喫 未来化プロジェクト>

⇒ 科毎に、各分野における今後の学びの在り方に関し調査,研究を行った

10/26の専門人材未来会議にて、WG 毎の中間発表を行った

<学び満喫 深堀プロジェクト>

⇒ 企業連携等探求型教育事業の開発

分野横断型技術者教育事業の開発

<学び満喫 発信プロジェクト>

⇒3つのワーキンググループを組織し調査・研究を実施

①研究機関事例調査 WG(学校法人が設置する研究機関に関し事例を調査)

②他校事例調査 WG(他校の高度化・リカレント教育等への取り組み事例)

③制度設計調査 WG(高度化・リカレント教育に関し助成金等優遇制度を調査)

※10/26の専門人材未来会議「技術革新から、新たな学びを考える」にて、
WG 毎の中間発表を行った

「職業教育における質保証に関する事例報告(一部抜粋)」

— 校としての質保証 —

<5期制>

⇒ 短い学修期間で学修成果を確認

<ディプロマポリシー>

⇒ 卒業時の到達目標(学修成果)を提示する

<履修科目表>

⇒ DP 実現に向け、必要な科目を過不足なく準備する

DP 実現へ各科目と DP との関係を精査する

<カリキュラムフロー>

⇒ DP 実現へ、科目相互の関係性を確認し、体系化する

<シラバス>

⇒ 各科目の「わかる目標・できる目標」を提示する

＜コマシラバス＞

⇒ 各科目の「わかる目標・できる目標」達成へ、プロセス設計を行う

＜授業シート＞

⇒ 90分ごとの授業を数値化して評価する

＜授業カルテ＞

⇒ 90分ごとの学修目標の達成度を確認する

＜授業評価＞

⇒ 11の評価基準で90分ごとの授業を数値化して評価する

＜履修判定試験＞

⇒ 科目ごとに「わかる目標・できる目標」の達成度を確認する

＜チェックバック手法の開発＞

⇒ 履修判定試験等の結果から問題点を発見する

— 企業連携 —

＜建築監督科＞

⇒ 大手建設会社に QCDS を学ぶ「オムニバス授業」を実施

＜建築科＞

⇒ 大和ハウス社員の非常勤登用や新入社員の受入れ

＜インテリア科＞

⇒ 26社のインテリア関連企業と連携

＜環境テクノロジー科＞

⇒ 国内水事業最大手「水 ing」の実務者から水処理技術の指導

(3) 第三号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

【渡邊委員長】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

【井坂副校長】

「テーマを限定せず、我々の取り組みに関して、感じたことを自由に、ご発言して頂ければと思います。ご意見とご感想をよろしくお願いいたします。」

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【安藤委員(株式会社 miwa)】

「今までに聞いたことのある内容で、全体的に慣れ感がある。それは、ある意味成長を止めている気がする。もう少し、もがいた方がよいのでは。ワクワクするものでも、何度も見ているとワクワクしなくなる。」

【白井校長】

「おっしゃる通りでございます。」

【澤坂委員(株式会社 Artisan)】

「データサイエンス+AI科とIoT+AI科がスタートし、8か月が経ちますが、現状どういった状況なのかお聞かせ頂きたい。」

【白井校長】

「新科2科につきましては、10名ほどの少ない人数でスタートし、正直なところ退学者も他学科と比べ、少々多い。しかし、“学びの内容”を理由に退学しているのではなく、経済的なことであったり、精神的なことであったりと個人的な都合のところが多い。在校生に関しては、RJP で意欲的に、座談会等も開催しており、楽しそうに過ごしている。」

【井坂副校長】

「IoTに関しては、ものづくりが中心となりますので、1人1テーマで、コンテンツを作り、11月半ばにコンテストに応募しました。次回は作品をお見せできるかと思っております。」

【白井校長】

「データサイエンスの方も、とある会社の法務事務局から、法務に AI を搭載したいというお話が出てきておりまして、そこで学生に対して、企業課題を頂くということも検討しております。」

【藤沼委員(NEC ソリューションイノベーター株式会社;バイオ科卒業生)】

「学校経営という視点で教えて頂きたいのですが、退学率5%以下を目指すという指標は、そもそも指標としてよいものなのかかわからない。退学理由が、経済面であるとか、精神面であるというのは、学校や先生、カリキュラム等の責任ではない。入学時とは違う、新たな目標に進むために退学する、といった場合を考えると、退学が必ずしも悪いとは思えない。学校経営という視点からみると厳しいのかと思いますが、その辺りの考えを教えて頂きたい。退学率を減らすという観点からすると、学科変更であるとか新しい取り組みができないものか教えていただきたい。」

【白井校長】

「やむを得ない退学事情を含めて、お預かりした以上は、最後まで面倒をみる、ということには、こだわりたい。5%という指標は、我々の長年の経験をもとに出した数値で、社会的にみてどれくらいのものかはわからないが、我々自身のハードルである。コンソーシアム東京でも、メンタル面の弱い学生が増えているという傾向が議題としてあがっており、その辺りも課題だと感じている。」

【井坂副校長】

「科のマネジメントとしても、入学してきた学生を、責任をもって卒業させたいという気持ちが強い。退学しなくてもよかったのではないかと、という学生をいかに減らすかが大切で、その中で一つの目標値が必要になる。前回の吉田委員の意見もあったが、入学後早い段階で、楽しさを教えることができれば、退学率も必然的に減ってくるのでは。また、安易に進路を変更する学生も多く、学び足りない段階で、違う分野に移行するというのを防ぐ意味合いもある。選択した分野・業界をしっかりと見極めたいので、判断してもらいたい。」

【小川事務長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】

「学修意欲の低下により、退学に至ってしまった学生は、どうにかカバーしたいと考えている。学校経営的な視点では、当校でいう5%とは、約30名で、一人当たり100万円ということを考えると、減らさなければ、やはり厳しい。低迷している新科のことを考えると、1人でも退学者を減らさないと回っていかない。その辺りも含めて、我々の経験の中で“5%”という数値は大きく、実際に達成した年もあり、目標としたいと考えている。」

【長田委員(ゲームプログラミング科保護者)】

「学校がこのような会議等を通して、意見を出し合い、教育に反映しているというのが、子供の成長と重ね合わせて、非常によくわかる。このような機会を与えてくださり感謝している。先生方も大変だと思うが、親としては本当にありがたい気持ちでいっぱいである。」

【白井校長】

「ありがとうございます。最近は、伸びている学生の話が沢山するようにしている。成績が中の下だった卒業生が、新入社員研修で、80名中トップだったという話もある。そのようなお話は非常に励みになる。」

【多田隈委員(バイオテクノロジー科保護者)】

「毎回ですが、Wi-Fiの環境であるとか、食事や安らぎの場所の改善は引き続き続けて頂きたい。自身の会社でも、インターンシップ生の受入れを積極的にしており、互いに“生の声”が聴けるなど、企業側学生側双方にとって利点がある。2年課程では、限度があると思うので、バイオテクノロジー科や環境テクノロジー科等で3年課程を作り、その課程の中でインターンシップなどを取り入れるのはどうか。また、学科名をみただけで、目指すものがわかる学科をもつ大学や高専を見ることが多く、科名を変えてみるのも面白いかもしれない。」

【白井校長】

「Wi-Fiに関しては、大切なので、調査改善をしている。来年度もしっかりと予算をつけて手を入れていきたいと思っている。安らぎの場というところでは、コロナ禍もあいまって、席数を削減していることもあり、なかなか増やすことができずに、申し訳ないと感じている。インターンシップに関して、4年課程の建築監督科に関しては、部分的に行っている学生もいるが、2年課程においては、大々的には行えていない。しかし、もう少し学びを継続したいという学生に向けて、2年間で終わった後にもう1年やれるようなものを作りたいと考えている。できれば早いうちに実現したい。」

【中山委員(有限会社イプシロン、東京商工会議所)】

「教育システム・カリキュラムの内容は、本当に毎回完成度が高いなと思いながら拝見している。その中で、学園理念にある『高い技術力と豊かな人間性を育む』というのは、理念としてとても素晴らしい。多くの学生が卒業をして、就職をしたときに、“学んできたこと”と“現実”との乖離によって壁にぶつかる。それは、“常日頃からトレンドを受け入れ世の中と対峙している人間”と“勉強してきた人間”の違いによるものなのかと。それを解消するには、未来会議等で先生方が勉強するというのも大事だが、学生にも限定された期間の中で、優先順位を置きつつ、トレンドに触れる機会を作るタイミングが必要になってくるかと。」

【白井校長】

「実務と学修の中には、乖離があって、多くの人が就職してリアリティショックで打ちのめされたということもあると思うが、なるべくその辺りも縮めてあげたい気持ちが非常にある。私は、“マインド”という言葉を使うが、業界には業界のマインドがあって、それを少しでも理解させることができれば、強みになるかと。職業実践専門課程でやっている専門学校の強みを生かし、企業課題等をやりながら、社会人教育、業界研究をして、進む業界のマインドを育てたいと考えている。」

【佐々委員(特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21)】

「教育は、そう簡単に毎日ワクワクしてられないのかなと思う。現状を維持し、昨日と同じことを今日も教えられ、昨日と同じように今日も子供たちが元気に過ごしていけるというのは大事なのかなと。前回もお話しましたが、建築系、情報系、バイオ系と小宇宙があることが、強みであると思うので、探究学修の先取りであるリアルジョブプロジェクトが非常に重要になる。また、コマシラバスを見ていると魅力的感じる人がいる一方、気後れしてしまう学生もいるのかなと、先生も学生も“Well-being”であることも非常に大事だと思う。」

【白井校長】

「ありがとうございます。佐々委員に以前頂いた“素敵な小宇宙”というお題は、心に刻み込んでおりますので、そこを創るべく頑張っていきたい。」

【島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ、法政大学大学院デザイン工学研究科、インテリア科講師)】

「交流がなかなか出来なかった、建築科とインテリア科の展示会があったのは学生も刺激を受けていた印象があった。また、RJPの一環で、クリスマスツリーのデコレーションができたのは、いつもと異なる学生の表情を見ることができてよかった。未来会議もまた刺激的でよかった。『アド街ック天国』で取り上げられたが、それによる影響や事前のやり取りを知りたい。“メンタルの弱い”学生が増えているというお話があったが、実際に自分の作品に自信の持てない学生やSNSでいう“いいね”が欲しい学生が増えている印象がある。大学でもそういった傾向がみえるので、対策を講じていきたい。」

【小川事務長】

「『アド街ック天国』による影響は確かにあったが、入学対象でない方々からの問い合わせがほとんどであった。ムーンロードを上から撮影させてくれないかという依頼があったのが最初で、当校も取り上げて頂けるなと話が広がり決まりました。」

【白井校長】

「展示会で、学科間の交流ができたのはよかった。クリスマスツリーでは、Web 動画クリエイター科がプロジェクトマップやVRやARを埋め込んだりと、色んな仕掛けができています。学生募集に関しては、厳しい部分もあるので、なるべくメディアには出ていきたい。評価を気にする学生に関しては、非常に悩ましい問題である。」

【杉岡委員(株式会社グッドニュース)】

「コンソーシアム東京のしごと倶楽部に、参加させて頂いたが、もう少し何か出来たんじゃないか。退学率に関して、学内のみの数値で5%を出しているかと思うが、インパクトのある数値と比較してはどうか。例えば、エンゲージメント指数等を準備してはどうか。卒業生向けアンケートで、就職後の活躍率を出すことで、他校と比較した際に、非常に良い数値が出るのではないかと。インターンシップについては、実際にインターンシップ生を受け入れると、入社後のイメージも掴めるのではないかと。卒業生と在校生との繋がりは続けていただきたい。大和ハウスとの連携を取られています、他のハウスメーカーやゼネコンとも連携していくと良い。今以上に熱意を持って取り組んで頂きたい。」

【白井校長】

「しごと倶楽部も少し消極的だったかなと反省しております。今のご意見を取り入れながら、検討していきたい。」

【松本委員(株式会社進研アド)】

「昨年度、私立大学に推薦で入学した学生が、58.4%で、今年度は6割超えるのでは、と言われている。推薦の割合が増えると高校時代に勉強を頑張る生徒が減る。そうすると、3つのポリシーの達成が困難になり、各学校のブランドが守れなくなる可能性がある。今までの指導が通用しない学生も増えることが見込まれるため、受け入れ態勢の強化が大事だと思う。」

【白井校長】

「本当にそうなるかと思えます。急いで、準備していきたいと思えます、ありがとうございます。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「小学校・中学校の長期欠席率が異常に増えている。それは、学校のせいではなく、世の中の社会情勢とかいじめ問題であるとか色々なものが絡んでいる。3年後には、その世代が入学してくる。その準備を。また、社会人基礎力が重要視される世の中で、専門学校内で、入学後にピポットできる環境ができると良いと思う。より自由度があればよい。学校内外(専門学校同士で)できると良いのでは、専門学校一校でできることには、限

界がある。」

【白井校長】

「コンソーシアム東京であるとか、そういった場がよりあればと思います。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「新科2科に関して、その学科に入学すれば、どんな企業に就職できるのかが大事になると思う。単に情報系の会社に入社するだけでなく、データサイエンスやIoTに特化した職に従事できるような人材を輩出してほしい。」

【白井校長】

「学修の動機、その純度が上がると、人は動きますよね。いろいろ考えていきます。」

【岸委員(東中野五丁目小滝町会)】

「毎回、課題解決力というのは素晴らしいと感じる。退学率の話が多かったと思いますが、多くの学生が学びを継続しているということは、それだけ満足していることなので、成功しているのでは。学校公開のイベントについても、地域のニュースでご案内させて頂き、活動に協力できればと思う。ただ、これだけ多くの報告があり、先生方の仕事の荷重感が気になる。その辺りはどうか。」

【白井校長】

「教員は業務の性質上、なかなか”区切り”が難しいが、残業自体は減らせている。ただし、精神的な部分で負荷がかかっていることもあるので、気にしていきたい。」

【渡邊委員長】

「世界的に電子部品の入手が難しくなっている。かなり前から準備しないと難しいのでは。RJPが続いていることは、良いことだが、各科のコラボがないのは残念である。データサイエンスやIoTの分野はコラボがしやすいと思うので、実現してほしい。未来会議に関しては、実際に何か変化があったのかを知りたい。」

【白井校長】

「電子部品の問題は、教材を変更したりしながら対応している。RJPに関しては、ごもっともだと思います。未来会議は、意識的なところで非常に有意義であり、新しい学びを作っていこうという気持ちになる。清水建設さんとバンダイナムコさんが、コラボを決めたということもあって勉強にもなった。」

7. 閉会の辞

【渡邊委員長】

「みなさん意見どうもありがとうございました。会議時間も少なくなってきましたので、現在までの説明をもって評価したいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい改善への取り組みだと思いますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」

【全委員】

全員一致で賛同

【渡邊委員長】

「ありがとうございます。適切な活動であると評価したいと思います。これにて、会議の方は終了しますが、今後の活動についての改善努力についても計画したものがどのように進捗しているのか、またその取り組みを含めこれからも公開をお願いしたいと思います。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。」

【井坂副校長】

「議長どうもありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。本会議を持ちまして本日の学校関係者評価委員会の会議は終了となります。なお、本年度の卒業研究・卒業制作及びRJPの学修成果発表会につきましては、適切な方策を検討しまして、コロナ禍ということを考慮し、予定はしておりますが、改めてご案内申し上げたいと思います。今後とも当校の教育にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。」

以上

議事録署名人

印

印